

動 action

東京大学スポーツ先端科学研究拠点

シンポジウム

狂言師・山本東次郎氏(人間国宝)から学ぶ 技芸・スポーツ科学研究の未来

長年の鍛錬を通して培われる高度に洗練された技は分野を問わず人々を魅了します。本シンポジウムでは、洗練された技とはどのようなものか、山本東次郎氏の実演および技芸・スポーツの熟練者の研究データに基づき考えます。合わせて、名人や一流アスリートの技を対象とした科学研究の在り方・進め方についてディスカッションを行います。奮ってご参加ください。



山本 東次郎
狂言師・
人間国宝



植田 一博
東京大学大学院
総合文化研究科
教授



工藤 和俊
東京大学大学院
情報学環
准教授



三浦 裕子
武蔵野大学
文学部 教授
臨床資料センター長

2019

4/25

THU

東京大学 駒場キャンパス

18号館1階ホール/17:00~19:00

参加費無料

参加登録制
(先着順)

主催：東京大学スポーツ先端科学研究拠点
共催：東京大学大学院総合文化研究科
協力：武蔵野大学能楽資料センター／東大駒場友の会
問合せ先：office@utssi.c.u-tokyo.ac.jp
参加登録：東京大学スポーツ先端科学研究拠点
ホームページよりご登録ください
<http://utssi.c.u-tokyo.ac.jp/>



狂言師・山本東次郎氏(人間国宝)から学ぶ技芸・スポーツ科学研究の未来

PROGRAM

- 17:00-17:05 開会挨拶**
石井 直方 (スポーツ先端科学研究拠点 拠点長)
- 17:05-17:15 狂言解説**
三浦 裕子 (武蔵野大学 文学部 教授 / 能楽資料センター長)
- 17:15-17:45 狂言「地蔵舞」**
シテ・旅僧: 山本 東次郎 (狂言師・人間国宝)
アド・宿主: 山本 泰太郎
- 17:45-18:00 講演1:「日本の伝統芸能におけるイキ」**
植田 一博 (東京大学大学院 総合文化研究科 教授)
- 18:00-18:15 講演2:「熟達者の身体」**
工藤 和俊 (東京大学大学院 情報学環 准教授)
- 18:15-19:00 それぞれの「花」～名人・若手～**
小舞「雪山」「猿賀」「柴垣」
山本 東次郎、山本 凜太郎 / 司会: 三浦 裕子
- パネルディスカッション**
パネリスト: 山本 東次郎、植田 一博、工藤 和俊、三浦 裕子
モデレーター: 石井 直方

出演者

山本 東次郎

大蔵流狂言方。1937年生。三世山本東次郎の長男。父に師事。42年、「痲痺(しびり)」のシテで初舞台。72年、山本東次郎(四世)襲名。芸術祭奨励賞、芸術選奨文部大臣賞、親世寿夫記念法政大学能楽賞、エクスンモービル音楽賞(邦楽部門)、日本芸術院賞を受賞。紫綬褒章受章。重要無形文化財各個認定保持者(人間国宝)。日本芸術院会員。日本能楽会会員。著書・共著に「狂言のすずめ」「狂言のことだま」「山本東次郎家 狂言の面」「狂言 山本東次郎」、「中高生のための狂言入門」、「芸の心」など多数。

山本 泰太郎

大蔵流狂言方。1971年生。山本則直(三世山本東次郎の次男)の長男。父および四世山本東次郎に師事。76年、「覇猿(うつぼざる)」の子猿で初舞台。芸術祭優秀賞、日本伝統文化振興財団賞を受賞。日本能楽会会員。

山本 凜太郎

大蔵流狂言方。1993年生。山本泰太郎の長男。祖父および山本東次郎に師事。97年、「伊呂波(いろは)」のシテで初舞台。能楽協会会員。

石井 直方

東京大学スポーツ先端科学研究拠点長、総合文化研究科・新領域創成科学研究科教授(理学博士)。専門は筋生理学。筋およびトレーニングに関する著書多数。競技者としてはボディビルミスター日本優勝・世界選手権第3位など。

植田 一博

東京大学大学院総合文化研究科 教授・博士(学術)。高次認知を中心に、知覚や運動を含めた人間の幅広い認知活動と、その環境との相互作用の解明を目指して研究を行っている。その一環として能・狂言や文楽などの伝統芸能の研究を進める。日本認知科学会会長。日本認知科学会論文賞、ドコモ・モバイル・サイエンス賞・奨励賞など受賞多数。

工藤 和俊

東京大学大学院情報学環 准教授・博士(学術)。一流のアスリート、ダンサー、音楽演奏家が日々の弛まぬ練習によって体得する高度な技(スキル)の巧みさについて認知科学・神経科学・数理科学的手法を用いて研究を進める。著書に「身体:環境とのエンカウンター」(東京大学出版会)、「筋機能改善の理学療法とそのメカニズム」(ナッパ)など(分担執筆)。

三浦 裕子

武蔵野大学文学部 教授、能楽資料センター長。能・狂言の音楽、および近代能楽史を研究。あわせて能・狂言の普及啓蒙にもつとめる。著書・共著に「能・狂言の音楽入門」「初めての能・狂言」「面(おもて)からたどる能楽百一番」「面白いほどよくわかる能・狂言」「まんがで楽しむ能・狂言」など。

狂言

中世に成立した喜劇。能と同様、猿楽という雑多な芸能の集合体を遠い祖先としています。能は歌と舞を主体とする、一種のミュージカルと言えます。一方、狂言はセリフによってストーリーの進行する、一般的な演劇に近いものです。このような能・狂言(能楽は総称)は、歌舞伎・文楽とともに日本を代表する伝統芸能としてユネスコの無形文化遺産に登録されています。

小舞

小編の歌謡によって舞う狂言の舞踊曲。身体性を養う練習曲として、酒宴の場面などで舞われる舞踊曲として、大蔵流には約50曲の小舞があります。

狂言「地蔵舞」あらすじ

日暮れ時に旅の僧が宿を借りようと思います。しかし、そこは旅の者に宿を貸すことを禁じた土地でした。素知らぬふりをしてある家を訪れると、案の定、主(あるじ)から泊めることはできないと断られます。僧は笠を一夜預かってほしいと頼み、その笠が置いてある座敷に忍び込むと……。

山本東次郎家

狂言には大蔵流・和泉流の二流があり、山本東次郎家は大蔵流に属しています。豊後国岡藩(大分県竹田)の江戸詰藩士として狂言を演じた初世東次郎に始まり、以後、同家は東京の大蔵流を支えてきました。現当主の四世は、安易な写実と妥協を排した強靱な芸風を有し、人間を鋭くまた温かく見つめた狂言の世界を構築しています。

